Kwansei Gakuin University

論文（*Article*）

私邸庭園の立地する蘇州の伝統的居住地区における屋外空間の機能的特徴に関する研究

A Study on the Functional Characteristics of the Outdoor Spaces in Residential District of Suzhou, China

孫 剣氷・加藤 晃規
Sun Jianbing and Akinori Kato

Most of the residential gardens in Suzhou, China are located in the center of the traditional residential district. Before exploring how local people use these gardens as outdoor space, it is necessary to grasp the current situation of the ways that different kinds of outdoor space are utilized. A survey of how residents use various outdoor spaces at the district was given to residents from four residential districts. The result of the survey shows that local people use the different kinds of outdoor spaces mainly as ① the place to carry out daily routine which could also be done inside the house, ② the place to carry out casual activities, ③ the place to carry out leisure activities, ④ the place to carry out community activities. Since the distribution of the four different types of outdoor spaces is unbalanced among the districts, it is necessary to make future decisions based on the current situation of outdoor spaces

キーワード：中国、蘇州、私邸庭園、屋外空間、住民利用

Key Words : China, Suzhou City, Residential Gardens, Outdoor Space, Utilization by the Neighborhood

1. 研究背景と目的

今日、歴史的な景観や庭園といった風物に恵まれた地域では、こうした文化資源の保存、整備、そしてその利・活用への関心が高まっている。とくに歴史的庭園を市民の共有資源として評価し、それをまちづくりに連環させる議論が活発になってきた。歴史的真実性（オーセンティシティ）を確保したうえで、現代都市の生活空間の中で歴史的庭園がもつ環境価値を積極的に評価することが重要な課題となりつつある。

中国江南地方は、経済、文化、自然などの条件に恵まれた土地柄であり、歴史的庭園が集積している。中でも蘇州は、庭園の数の多さやその芸術造詣のすばらしさから、中国の庭園史上、重要な地位を占めている。そして、会館、祠堂、寺院などが付設された少数の庭園を別にすれば、蘇州にある庭園総数の90%以上が住宅の一部であった私邸庭園で占められている[1]。かつて都市に群居していた官僚、文人、商人たちは都市の豊かな物産を享受するだけでなく、「山水林泉」を追求した。そのため、蘇州の私邸庭園も、交通が便利で、商業中心に接近している市街地内に立地されたものが多い。このような市街地は、現在では、①歴史的空間構造を持ち、歴史的建造物が多く残されており、②各時代を通じて密集市街地が形成され、現在も高密度な人口が包容され、③各種の生産・生活活動が集積する住商工混在地区である。こう

1　劉敦楨著、田中淡（1982）：中国の名庭――蘇州古典庭園：小学館、15

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

した既成市街地では、新たにオープンスペースとしての空間の確保は困難である。また、地区全体の歴史的空間構造の保存においては、既存の空間資源を生かすことが望まれる。歴史的庭園空間を生かし、それを都市生活に組み込んで、地区の緑、水系、さらに現代的な都市施設とネットワークを組み上げることによって、地区の生活環境を向上させることが考えられる。このため、庭園が持つ自然性の高い屋外空間の価値に着目し、それをオープンスペースとして保全するのである。しかし、蘇州の私邸庭園を扱った研究では、庭園にみる空間構造の芸術性に関する研究が主流であり[2]、私邸庭園の環境価値の評価やそうした視点からの保全策に関する研究は、今のところあまり見られない。

現在、私邸庭園の多くは文化財に指定され、都市の経済活動や生活からは隔離され、結果的に観光依存を余儀なくされるケースが多い。しかし、将来、地域の生活環境資源として活用することができれば、即ち文化的価値以外の社会的価値を明らかにできれば、地域レベルの公共施設として位置づける可能性が開ける。こうした視点からまず私邸庭園を包含する地区での屋外空間の利用実態やニーズの把握が必要である。これまで蘇州旧市街地に関しては、史料収集や現地での遺構調査による都市計画史または建築史の研究[3]、形態学の視点から歴史的空間の構造を解明する研究[4]、空間デザインの視点から歴史的空間構造の変容に関する研究[5]などがみられる。しかし、歴史的庭園を、旧市街地内の現住民の生活の場としてとらえ、そこの屋外空間を彼らの生活環境上の価値と結びつける研究は少なく、特に社会機能的な面からこの種の屋外空間を論じたものがない。

本研究では、蘇州旧市街で私邸庭園を有する伝統的居住地区のオープンスペースを、所有形態に関わらず住民が屋外において利用できる空間、つまり「屋外空間」と定義している。そして、生活環境資源としての歴史的庭園の価値を検討するため、まず、住民が利用している各種の屋外空間の機能を明らかにし、その中で私邸庭園が地区の屋外空間としてどのように位置づけられるのかを明らかにする。また、各種の屋外空間の分布状況から地区ごとに屋外空間の機能的特徴を明らかにする。それらをもとに、既存の環境資源を生かした屋外空間の機能再編を示唆する。

2. 調査概要

2.1 調査概要

旧市街に立地する私邸庭園は「観前」と「閶門」の間(中心部から西北部にかける地域)に最も多く、次に「観前」と「東北街」の間(中心部から東北部にかける地区)に多く、さらに旧市街の東南部がこれに次ぐ。本研究では、旧市街の西北部にある「倉橋地区」、東北部にある「歴史街区地区」、東南部にある「滄浪地区」と「網師地区」の四つの地区を調査対象地区として取り上げた。なお、旧市街の主な私邸庭園の分布及び調査地区の位置を図1に示す。

各地区の地域特性と空間構成を把握するため、各地区の分区計画[6]を参考にし、その上で現地観察調査と対象地区の「社区居民委員」[7]の職員に対

2　注1の文献の他に童寯の『江南園林志』や陳従周の『蘇州園林』など、数多くの研究成果があげられる。

3　伊原弘(1979)：「唐宋時代の浙西における都市の変遷――宋平江図解読作業」(『中央大学文学部紀要』、史学科24号、39-75)など

4　鮑家声(1993)：伝統居住街区改造更新設計探：旧城改造：清華大学出版社、135-137

5　王郁、三村浩史、東樋口護(1998.3)：水郷都市・蘇州における旧市街地の歴史的空間形態の変容分析：日本建築学会計画系論文集、第505号、119-124

6　1998年に蘇州市都市計画局が作成した旧市街の54地区ごとの分区計画であり、各地区の土地利用の現状などが記されている。2000年から旧市街には大きな改変が行われていないため、地区の特性を把握するには有効な資料だと考えられる。

7　「社区」とはコミュニティの中国語訳で、「社区居民委員会」は中国の住民自治の組織である。

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

するヒアリングを行った。この過程を通じて各地区において住民が利用できる屋外空間の具体的場所(屋外空間サンプル)と、アンケートに使用する屋外活動項目の設定を行った。質問項目は回答者の属性に関する項目、また各空間サンプルについて利用がある場合はどのような屋外活動に使われるのかについての項目がある。

各空間サンプルにおける地区住民の利用実態についてはアンケート調査により把握した。地区毎に200世帯を対象とし、調査票の配布を行ったが、対象地区の「社区居民委員会」の「居民小組」の責任者に主旨を説明した上で、調査票の配布に協力してもらった。各地区の回収できたサンプル数及び回答者属性は表1に示している。その結果「社区」への関心の高い高齢者からの回収率が高くなり、若干、年齢層の偏りが見られた。

倉橋地区			歴史街区地区		
20歳代	27	23.3%	20歳代	22	11.1%
30歳代	14	12.1%	30歳代	21	10.6%
40歳代	16	13.8%	40歳代	44	22.2%
50歳代	17	14.7%	50歳代	56	28.3%
60歳以上	42	36.2%	60歳以上	55	27.8%
合計	116	100.0%	合計	198	100.0%
滄浪地区			網師地区		
20歳代	21	13.0%	20歳代	7	5.1%
30歳代	21	13.0%	30歳代	12	8.8%
40歳代	27	16.7%	40歳代	19	14.0%
50歳代	25	15.4%	50歳代	29	21.3%
60歳以上	68	42.0%	60歳以上	69	50.7%
合計	162	100.0%	合計	136	100.0%

表1. 調査票回答者の構成

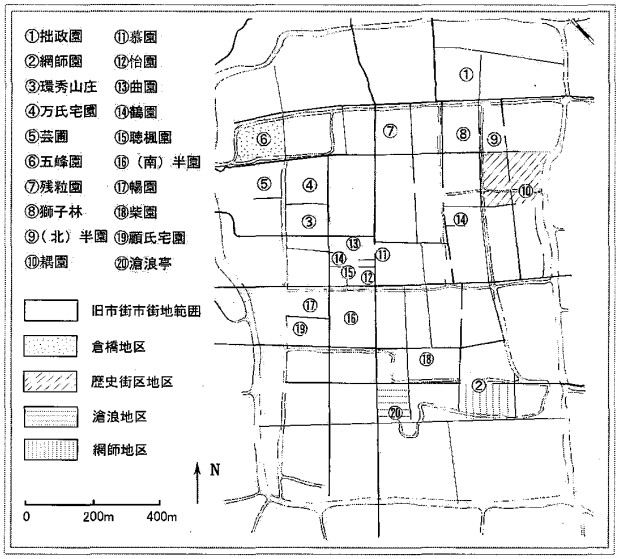


図1. 私邸庭園の分布状況と調査対象地区

2.2 調査地区の概要

蘇州の旧市街は各時代を通じて、住宅開発が進み、共通の整備手法を見出せる住宅地が形成されている。しかし、形成のタイムラグから地域特性や空間構造に違いがみられ、屋外空間の構成も異なっている。地域特性を、宅地形成のプロセスから捉えた多数の既往研究[8]を参考に、以下各地区の特性をまとめる。

2.2.1 倉橋地区

倉橋地区は面積が17.07haで、宋代に形成された旧市街の西北部市街地にある。旧市街の西側にある「閶門」を中心とし、宋時代から明・清時代でも一大繁華地で、高級住宅が形成されていた。しかし、人口の過密化によって清時代から水路の陸地化が進み、居住環境の悪化も見られる地区である。現在も狭隘な道路がグリッド状に入り組み、未だに歴史的空間の骨格が保たれている地区である。地区に大規模な施設が立地されず、伝統的住宅が建ち並び、均質な住宅地の中で、増改築による過密化が見られる。

8 同注3の文献

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

2.2.2　歴史街区地区

旧市街の東北部は明時代から西北部と同じ手法で住宅地の整備が進み、さらに清時代から再開発された場所である。東北部にある面積48.15haのこの地区には、清時代末に建てられた中規模の地主などの住宅が整然と並び、さらに地方商人の会館も残されている。西北部に比べて、下流にあるにもかかわらず、一度陸地化した水路を蘇らせ、現在でも水路に囲まれた住宅地が連なる。さらに2002年に公共事業によって水路の浚渫や通路の舗装などが行われ、環境が整備された。伝統的居住地区でありながら、居住環境が向上した地区である。

2.2.3　滄浪地区

開発が遅れていた旧市街の東南部にあり、地区面積は25.05haである。各時代を通じて湿地が広がっていた東南部は、繁華街から離れた地域であり、住宅地としての整備は充分されていなかった。現在、伝統的住宅は殆どなく、最近建設された集合住宅や単独世帯の住宅が多く見られる。また、旧公共施設や農地を利用した文教施設、市民の活動センターなど大型公共施設が多く立地していることがこの地区の特徴である。

2.2.4　網師地区

「滄浪地区」と同じく旧市街の東南部にあり、開発が遅れていた地区である。面積は46.74haである。地区の北部の「十全街」に面する側には清時代に官吏など裕福な住民が多く、それと対照的に南部と中部はスラム化されていた。現在北部には伝統的住宅が残されている。南部と中部には工場が建てられていたが、工場移転跡地に高級住宅団地が建設された。増改築された伝統的住宅と新たに建設された集合住宅が混在する地区である。また、地区内には大型敷地が多く見られるが、大規模なホテル用地になっていることが特徴である。

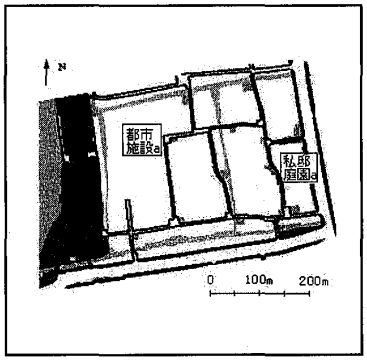


図2．倉橋社区の概要

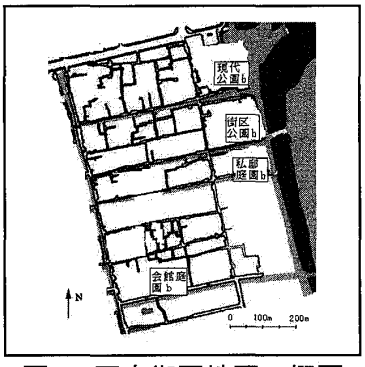


図3．歴史街区地区の概要

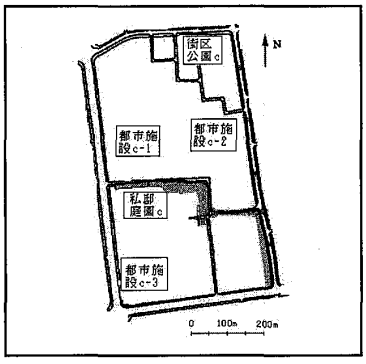


図4．滄浪地区の概要

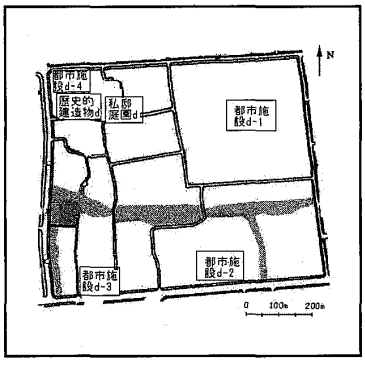


図5．網師園地区の概要

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

2.3 空間サンプル概要

鮑家声は形態学の視点から旧市街伝統的居住地区の歴史的空間の原型に関する構造解明を試みており[9]、それによると伝統的地区では、住宅地内に確保された「天井」や「庭院」と街路や水路沿いの空間が歴史的空間の構造を受け継いでおり、近隣生活において重要な屋外空間であると指摘している。しかし、このような歴史的空間は各空間レベルにおいて変容が引き起こされ、それらの変化は、都市全体の機能的な意味を表す土地利用や施設の立地という空間配置にも現れているという[10]。地区は、歴史的建造物を利用して機能変化をしたり、また新たに整備した都市施設が配置される。その中、公園や公共施設のような公共性のある空間が地区に対して屋外空間として機能することがある。

そこで、地区ごとに住宅関係の「庭や共用庭」、道路関係の「通路や水路沿い」、また表2に示すごとく「公園関係」と「公共施設関係」の屋外空間ごとに、屋外空間サンプルの整理をした。これに基づいて倉橋地区では4サンプル、歴史的街区地区では6サンプル、滄浪地区では7サンプル、網師地区では8サンプル、合計25サンプルの屋外空間を抽出することができた。

各地区の公園関係と公共施設関係の空間サンプルの概要は、図2、図3、図4、図5及び表3に示す。

3. 近隣住民の利用にみる屋外空間の類型

3.1 住民利用からみた屋外空間の類型

地区の屋外活動は個々の屋外空間の形状や接近条件だけではなく、地区全体の屋外空間の構造にも制約されている。そのため、地区全体から屋外空間の空間特徴を把握できるように、住民利用からみた屋外空間の類型を試みた。

屋外活動に関しては、「物干しや物置」、「涼みや日向ぼっこをする」、「近隣とのおしゃべり」、「散歩」、「太極拳や運動をする」、「家族や友人と休日

サンプルの種類 ＼ 特徴			施設の利用目的
公園関係	歴史的建造物などを利用した歴史的公園	私邸庭園（空間サンプルの「私邸庭園a」,「私邸庭園b」,「私邸庭園c」,「私邸庭園d」）	多目的に対応した施設
		会館や寺院に付属していた庭園（空間サンプルの「会館庭園b」）	
		中庭を持つ歴史的建造物（空間サンプルの「歴史的建造物d」）	
	近代から建設された都市公園	都市公園（空間サンプルの「現代公園b」）	
		街区公園（空間サンプルの「街区公園b」,「街区公園c」）	
公共施設（文教施設,福祉施設、宿泊施設などの公共施設）関係（空間サンプルの「都市施設a」など）			特定の目的に対応した施設

表2. 公園関係と公共施設関係の屋外空間の類型

9 同注4の文献
10 同注5の文献

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

公園名	面積（平方メートル）	建設年代
五峰園（「私邸庭園a」）	1476	明時代
耦園（「私邸庭園b」）	8000	清時代
東園（「現代公園b」）	118269	1979年
小柳枝巷小遊園（「街区公園b」）	500	2003年
全晋会館（「会館庭園b」）	5908	清時代
滄浪亭（「私邸庭園c」）	11220	宋時代
慧園（「街区公園c」）	850	2003年
網師園（「私邸庭園d」）	5470	清時代
沈徳潜故居（「歴史的建造物d」）	未公開	清時代

表3. 各地区における公園関係空間サンプル概要

を過ごす」、「子供の遊び」、「社区の集まりなど」[11]の8つの項目を設定した。屋外空間を特徴付ける指標の内容は空間サンプルごとに、各屋外活動として利用した該当者で除した百分率である。それらを用いて主成分分析を行った。その結果、三つの主成分が抽出された。各指標の固有ベクトル値を図6に示す。主成分分析で得られた各指標の因子負荷量の値を用いて、クラスター分析を行うと、（物干しや物置、涼みや日向ぼっこをする、近隣とのおしゃべり）、（休日を過ごす、運動）、（散歩、子供の遊び）、（社区の集まりなど）が近い位置にあり、互いに空間との対応関係が強いことがわかる。

各軸の意味を解釈すると、第1軸は「物干しや物置」、「涼みや日向ぼっこをする」、「近隣とのおしゃべり」がプラス側に寄与し、マイナス側では、「太極拳や運動をする」、「家族や友人と休日を過ごす」の寄与が高い。第1軸のプラス側は日常的活動として営まれ、マイナス側は余暇活動として行われたことを意味示している。そこで第1軸を「日常性」の軸と解釈できる。

第2軸は、「散歩をする」、「太極拳や運動をする」、「子供の遊び場」がプラス側に寄与し、「地域コミュニティの集まり」がマイナス側に寄与している。第2軸のプラス側は個人的活動が行われ、マイナス側には地域での交流性の高い活動が行われたと意味付けられる。第2軸は「地域性」の軸と解釈できる。

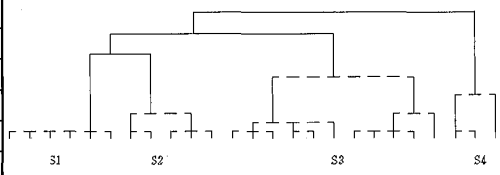
第3軸は、プラス側に「家族や友人と休日を過ごす」、「太極拳や運動をする」のような余暇施設の利用を伴う活動が寄与し、マイナス側には「散歩をする」、「子供の遊び場」のような任意の屋外空間活動が寄与している。第3軸は「施設性」の軸と解釈できる。

各空間サンプルの3軸における主成分の得点を用いて、クラスター分析（ウォード法）による屋外空間の類型を行い、4つの空間類型（以下S1-S4）ができた（図6）。

<主成分分析の各指標固有ベクトル値>

指標	第１軸	第２軸	第３軸
物干しや物置	.856	.026	.173
涼みやひなたぼっこをする	.896	.065	.256
近隣とのおしゃべり	.771	.314	.216
散歩をする	-.326	.735	-.299
太極拳や運動をする	-.710	.352	.404
家族や友人と休日を過ごす	-.586	.113	.717
子供の遊び	-.051	.721	-.309
社区の集まりなど	-.323	-.834	-.153
固有値	3.190	1.982	1.028
累積寄与率	.398	.647	.775

<各空間サンプルの類型化>



S1:日常生活行為の屋外展開の場
S2:任意の屋外活動の場
S3:余暇的活動の場
S4:コミュニティ活動の場

図6. 屋外空間サンプルの類型

11 生活スタイルの現状を配慮し、「家族や友人と休日を過ごす」の項目に喫茶やトランプなどの具体的な活動内容を提示している。「社区の集まりなど」には「社区居民委員会」によって行われた地域のイベントまたは地域の趣味に関する集団の具体的な活動内容を提示している。

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

3.2 各類型屋外空間の機能的特徴の把握

各座標系におけるサンプルの分布形態(図7、図8)から、各類型の屋外空間の機能的特徴を見る。

S1は1軸の正側に位置し、共用の作業、会話、憩いなどがよく行われる空間で、個人、家族或いは近隣の日常生活に関わる生活行為の屋外展開の場として機能する空間である。

S2は2軸では正側に、3軸の負側に布置していることから、散歩や子供の遊びなどのような施設の利用目的と関係なく、個人の任意の屋外活動の場であると考えられる。

S3は1軸の負側に布置していることから、余暇的活動が行われる空間と考えられ、また3軸の正側に布置していることから、施設の利用を伴う余暇的活動の場として機能する空間と推測できる。

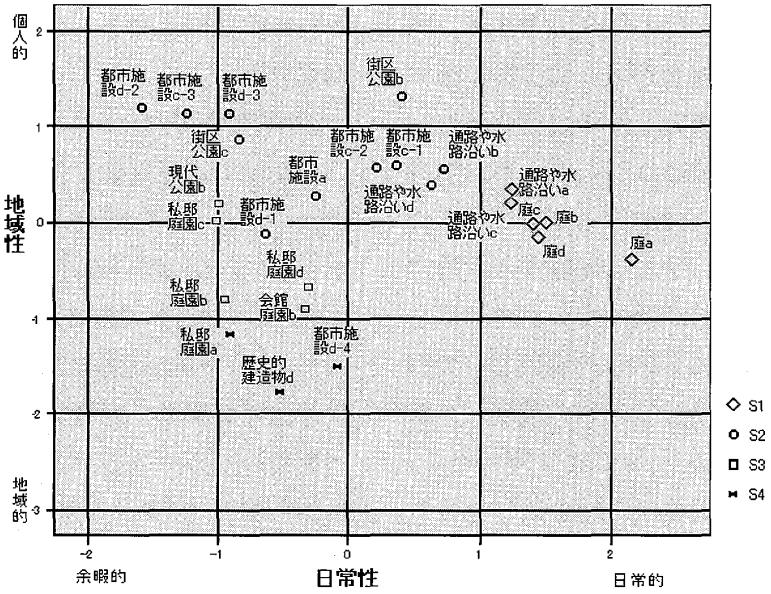


図7. 第1軸と第2軸における空間サンプルの位置

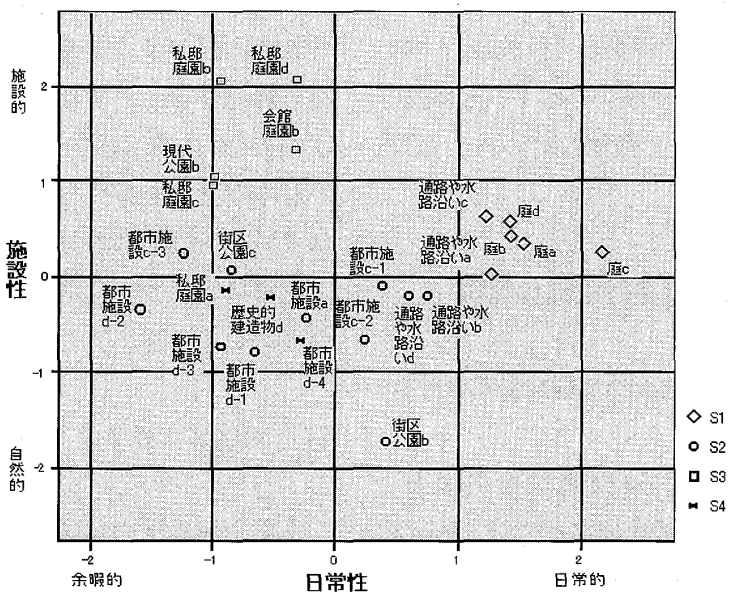


図8. 第1軸と第3軸における空間サンプルの位置

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

S4は1軸の負側に布置し、社区の集まりなどのようなコミュニティの活動の場として機能する空間である。

3.3 各空間サンプルと各類型の屋外空間の対応関係

伝統的居住地区において、住宅や道路関係の屋外空間は今でも地区の住民にとって日常生活と深く関わる屋外空間であり、S1やS2に該当する。歴史的空間の構造を受け継ぎながら、機能的な面においても伝統的な屋外空間としての役割を果たしている。公園関係の街区公園はS2に属する。公共施設関係の屋外空間の多くは施設の持っている特定の都市機能と関係なく、そこに付属する屋外空間だけを地区住民に任意の活動の場として利用され、S2に属する。多目的に対応した施設としての公園関係の屋外空間は、殆どS3として機能し、地区住民にとっては身近にある余暇的空間となる。また、規模の小さい歴史的公園の場合は、文化財として価値が比較的に低いものであり、観光者の利用も少ない。そのため、地区の「社区居民委員会」による無料利用が可能となっていることが多く、S4に類型されている。

調査地区では私邸庭園の「耦園」、「滄浪亭」、「網師園」がS3として機能し、規模の小さい「五峰園」が、地域活動の場のS4として機能していることがわかった。

4. 地区単位で捉えた屋外空間の特徴

4.1 地区における各機能的類型の屋外空間の分布

倉橋地区では、S1、S2、S4空間が存在する。全体的にグリッド状の街区空間においては、S1には住宅関係や道路関係の屋外空間が該当している。S2には「都市施設a」が該当する。また、S4には私邸庭園の「五峰園」が該当する。S3が存在しない。

歴史街区地区では、S1、S2、S3が存在している。S1には住宅地内の屋外空間が属している。道路関係の屋外空間がS2の機能を果たし、公共事業によって水路沿いの自然環境が整備されている状況が伺える。また地区の奥空間の通路沿いに整備された「街区公園b」もS2空間として機能している。この地区は公園関係の屋外空間が集中しており、それらの空間はS3として機能している。地区にはS4が存在しない。

滄浪地区では、S1、S2、S3が存在している。この地区では最近建てられた単独世帯の民家、集合住宅が多く、伝統的民家に比べ、庭を持つものが少ない。道路が庭の機能を補う役割を果たしており、住宅関係の屋外空間とともにS1として機能している。S2には文教施設などの公共施設関係の屋外空間が属し、近隣空間において代替空間として機能していることが特徴である。また、S3には私邸庭園の「滄浪亭」が該当している。S4が存在しない。

網師地区では、S1、S2、S3、S4が存在する。S1には住宅関係の屋外空間が属している。道路関係の屋外空間がS2に類型されており、新しく開発された団地が多く立地する地区で、生活行為が道路に展開すること少ないことがわかる。また、地区内の「都市施設d-1」のような宿泊施設内に広々とした庭空間を持つことが多く、S2として利用されている。私邸庭園の「網師園」がS3として機能し、文化財に指定された中庭を持つ「沈徳潜故居」がS4に当該している。

4.2 地区における屋外空間の整備課題

まず、各地区の共通の課題として、過密居住による住宅地内の改・増築、水路の陸地化などの歴史的空間の変容を伴い、住宅関係と道路関係の屋

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

外空間の喪失や機能の低下が起こされつつある。それにも関わらず、現在でも各地区とも住宅関係と道路関係の屋外空間が主にS1とS2として機能している。街区公園と一部の公共施設がS2として機能している地区もあるが、日常生活の屋外の展開や個人の任意の屋外活動が主に伝統的な屋外空間に頼っている現状である。歴史的空間の構造を受け継いだ私邸庭園が、現代都市計画制度によって新たな都市機能が付けられているが、地区の住民にとって主にS3として機能する。今後これらの空間を生かして、余暇的利用だけでなく、伝統的屋外空間の機能の欠落を相補うことを考え、地区の屋外空間の機能を再編する課題が考えられる。

地区の生活環境の特質が反映された屋外空間類型S1～S4の各地区における分布状況から、地区ごとに屋外空間の整備課題を考察する。

倉橋地区では、道路が狭隘で、道路沿いの緑化も少なく、「都市施設a」がS2として代替空間として機能しているが、全体的に、自然性の高い任意に利用できる空間の整備や創出が必要だと考えられる。また、「五峰園」以外には、多目的な利用に対応できる施設がないため、S3が存在せず、余暇的空間の整備が課題であると考えられる。

歴史街区地区では、公園関係の屋外空間が集中する地区である。しかし、これらの公園は、地区外の観光者がよく訪れるものの、有料化されているため、住民は気軽に利用できない現状である。地区の高齢化が進んでいるにも関わらず、高齢者にとって重要な活動の場としてのS4が存在していない。今後公園関係の屋外空間を地区のS4空間の拠点として機能できる内容に整備していくことが考えられる。

滄浪地区では、地区の主幹線道路に面する公共施設が多く、それらがS2として大きな役割を果たしているが、地区の裏空間にある屋外空間の整備の必要性が考えられる。また、歴史街区地区と同様に、S4空間の整備課題も考えられる。

網師地区では、道路関係の屋外空間がS2に属するが、住宅地の高級化につれて地区内の自動車の交通量が増加し、通路が散策道として機能がしにくくなりつつある。宿泊施設に付属する屋外空間が量的な意味で活動空間を補っているが、これは観光などの外来者の利用空間であり、今後地域住民が気軽に立ち寄れる、親しみやすい空間の確保が重要な課題と考えられる。

5. まとめと今後の課題

本調査で明らかになった点を以下にまとめる。

蘇州旧市街の屋外空間は地区内居住環境にとって、①個人、家族あるいは近隣生活にかかわる日常生活行為の屋外展開の場、②任意の屋外活動の場、③余暇的活動の場、④コミュニティ活動の場として機能していることが明らかになり、これらを機能的類型として整理することができた。

また、各空間サンプルと機能的類型の対応関係が明らかになり、私邸庭園の「耦園」、「網師園」、「滄浪亭」がそれぞれ地区の住民にとって主に非日常的な余暇空間であり、他方、規模の小さい「五峰園」が、地域の活動の場として機能していることがわかった。

各機能的類型の分布状況から、地区ごとに屋外空間の特徴を整理することができ、地区における、屋外空間の機能再編の方向性を示すことができた。

今後は地区の屋外空間の機能性の現状を踏まえ、地区の屋外空間としての私邸庭園の機能イメージを提案することが求められるであろう。庭園空間に内包された地域の風土性や景観を受け継ぎながら、庭園空間を地域生活に取り込むことによって全体の系統化を図るためである。それには住民のニーズや意識を把握することによって、地区の屋外空間の機能再編における私邸庭園の環境価値を評価することが必要であると思われる。

NII-Electronic Library Service